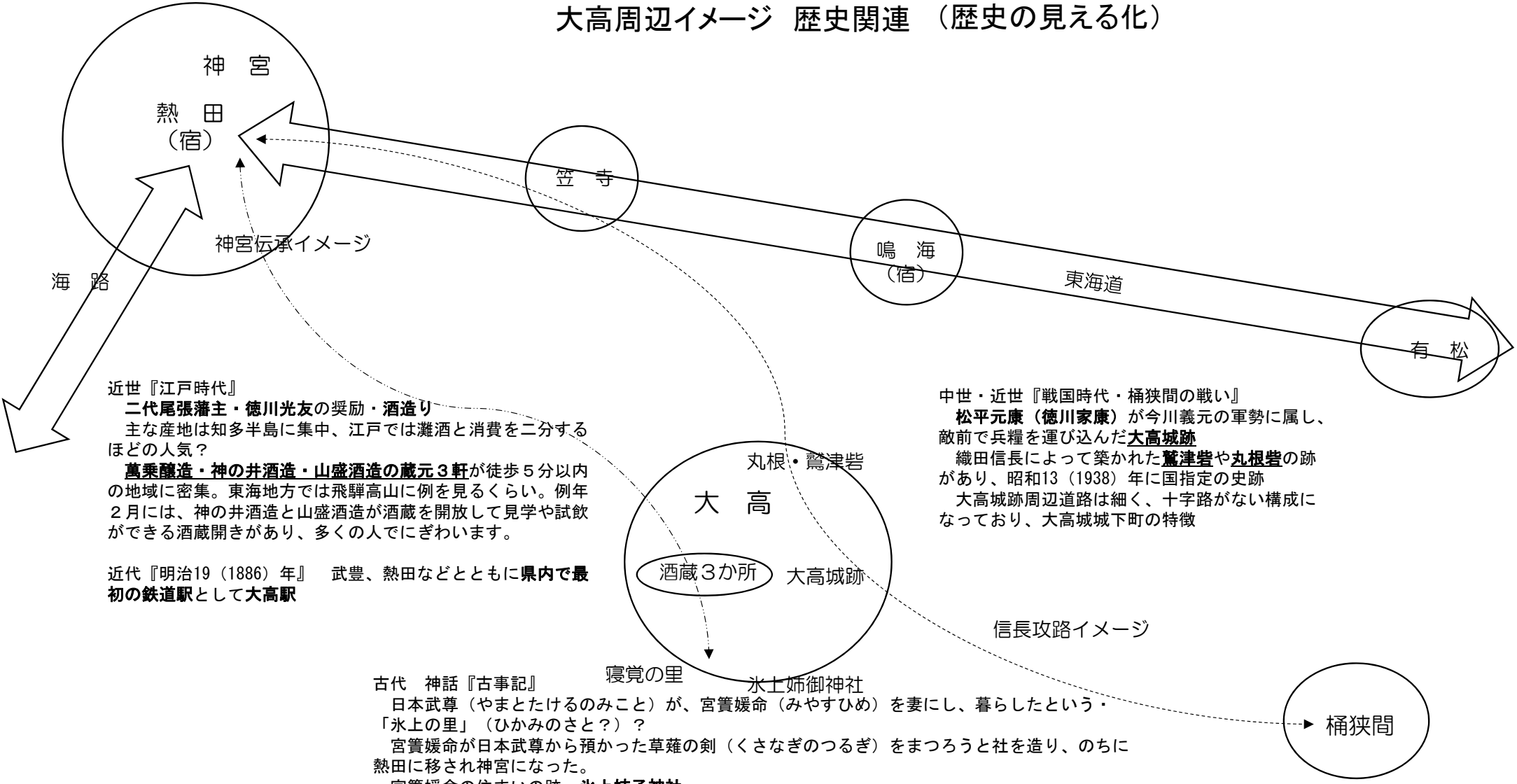
大高周辺イメージ　歴史関連　（歴史の見える化）



近世『江戸時代』
　二代尾張藩主・徳川光友の奨励・**酒造り**
　主な産地は知多半島に集中、江戸では灘酒と消費を二分するほどの人気？
　萬乗醸造・神の井酒造・山盛酒造の蔵元３軒が徒歩５分以内の地域に密集。東海地方では飛騨高山に例を見るくらい。例年２月には、神の井酒造と山盛酒造が酒蔵を開放して見学や試飲ができる酒蔵開きがあり、多くの人でにぎわいます。

近代『明治19（1886）年』　武豊、熱田などとともに**県内で最初の鉄道駅**として**大高駅**

中世・近世『戦国時代・桶狭間の戦い』
　松平元康（徳川家康）が今川義元の軍勢に属し、敵前で兵糧を運び込んだ**大高城跡**
　織田信長によって築かれた**鷲津砦**や**丸根砦**の跡があり、昭和13（1938）年に国指定の史跡
　大高城跡周辺道路は細く、十字路がない構成になっており、大高城城下町の特徴

古代　神話『古事記』
　日本武尊（やまとたけるのみこと）が、宮簀媛命（みやすひめ）を妻にし、暮らしたという・「氷上の里」（ひかみのさと？）？
　宮簀媛命が日本武尊から預かった草薙の剣（くさなぎのつるぎ）をまつろうと社を造り、のちに熱田に移され神宮になった。
　宮簀媛命の住まいの跡・**氷上姉子神社**
　日本武尊が波の音で目覚めたという逸話・「**寝覚の里**」　石碑
　祭礼：３月の太々神楽や６月の御田植祭など、氷上姉子神社のさまざまな祭り